

### 3. 2008 年版と 2007 年版との違いについて

地震動予測地図は作成手法の高度化の検討の成果に加え、時間の経過や大地震の発生による地震発生確率の変化を踏まえ、適切な時期に見直していくべきものです。この一環として、2006 年 9 月に更新した 2006 年版、2007 年 4 月に更新した 2007 年版に引き続き、今回 2008 年版地震動予測地図として更新しました。ここでは、2008 年版と 2007 年版の地震動予測地図の違いについて説明します。2007 年版との計算手法などの変更点については付録 4 を参照してください。

#### 更新の結果

2008 年版と 2007 年 4 月に公表した 2007 年版との確率の値の差分（平均ケース）を図 3.1 に示し、各地域で確率値が変化した主な原因を下記に記載します。

- ・ **北海道北部**に見られる確率値の低下は、サロベツ断層帯が「その他の活断層（サロベツ撓曲帯）」から「主要活断層帯（サロベツ断層帯）」となり、平均ケースの地震発生確率が低くなったことによる（参考：平成 19 年 11 月 サロベツ断層帯の長期評価公表）。しかし、最大ケースの地震発生確率は高くなっているため、この地域の最大ケースの確率値は高くなっている（図 1.1-2）。
- ・ **北海道東部、青森県東部**で見られる確率値の上昇は、計算基準日を 2007 年 1 月 1 日→2008 年 1 月 1 日に更新したことにより、それぞれ千島海溝沿い、三陸沖北部の海溝型地震の地震発生確率が高くなったことによる。
- ・ **宮城県**で見られる確率値の上昇は、計算基準日を 2007 年 1 月 1 日→2008 年 1 月 1 日に更新したことにより、宮城県沖の海溝型地震の発生確率が高くなったことによる。
- ・ **山形県**で見られる確率値の低下は、山形盆地断層帯の平均ケース地震発生確率が低くなったことと想定している地震の規模が小さくなったことによる（参考：平成 19 年 8 月 山形盆地断層帯の長期評価の一部改訂）。また、山形盆地断層帯北部の最大ケースの地震発生確率は高くなったが、想定している地震の規模が小さくなったため、この地域の最大ケースの確率値も低くなっている（図 1.1-2）。
- ・ **佐渡島周辺**で見られる確率値の若干の上昇は、この地域の震源不特定地震の頻度が上昇したことによる。
- ・ **富山県**で見られる確率値の低下は、魚津断層帯が「その他の活断層（黒菱山断層帯）」から「主要活断層帯（魚津断層帯）」となり、地震発生確率が低くなったことによる（参考：平成 19 年 5 月 魚津断層帯の長期評価公表）。
- ・ **長野県南部**でみられる確率値の低下は、伊那谷断層帯の地震発生確率が低くなったことによる（参考：平成 19 年 10 月 伊那谷断層帯の長期評価の一部改訂）。
- ・ **九州北部**で見られる確率値の上昇は、警固断層帯が「その他の活断層（警固断層）」から「主要活断層帯（警固断層帯）」となり、警固断層帯南東部の地震発生確率が従来の警固断層よりも高くなったことによる（参考：平成 19 年 3 月 警固断層帯の長期評価公表）。

- ・ 関東南部から四国地方にかけての太平洋沿岸で見られる確率値の上昇は、計算基準日を2007年1月1日→2008年1月1日に更新したことにより、南海トラフの地震の発生確率が高くなったことによる。

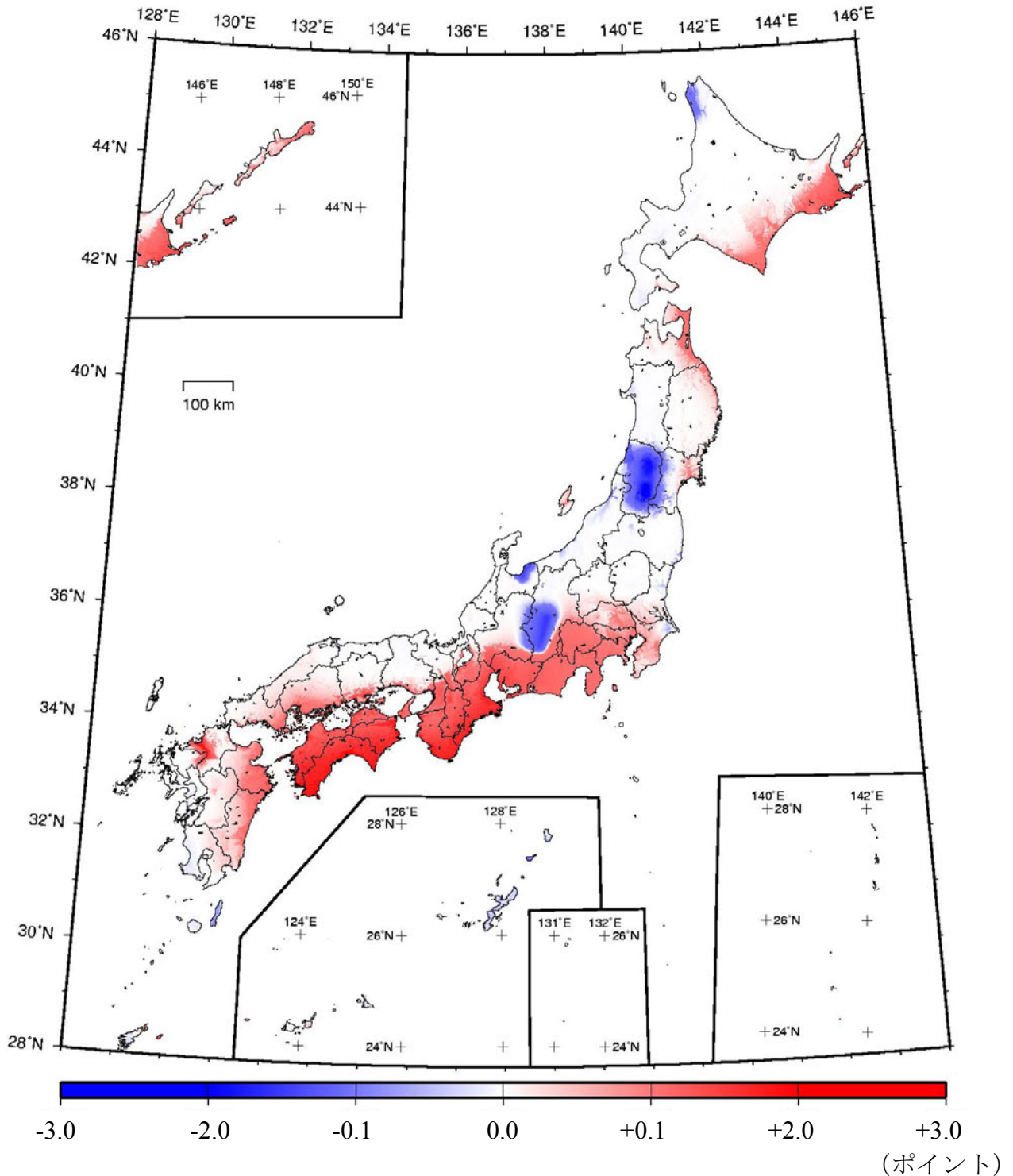


図3.1 2008年版と2007年版の確率値の差の分布図  
(今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率)

赤色：2008年版の確率値が2007年版より大きい  
青色：2008年版の確率値が2007年版より小さい

表 3.1 都道府県庁所在地がある市役所舎及び北海道の支庁舎付近において、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率 (2008 年)

県庁所在地・北海道の支庁の名称	30年以内震度 6 弱以上確率		県庁所在地・北海道の支庁の名称	30年以内震度 6 弱以上確率	
	2008年	(2007年)		2008年	(2007年)
札幌	0.5%	(0.5%)	新潟	3.4%	(3.3%)
石狩	0.6%	(0.6%)	富山	2.5%	(2.6%)
渡島	0.1%	(0.1%)	金沢	1.0%	(1.0%)
桧山	0.1%	(0.1%)	福井	1.4%	(1.4%)
後志	0.1%	(0.1%)	甲府	82.3%	(82.0%)
空知	2.0%	(2.0%)	長野	5.7%	(5.7%)
上川	0.03%	(0.03%)	岐阜	8.1%	(7.9%)
留萌	0.3%	(0.3%)	静岡	86.8%	(86.5%)
宗谷	0.5%	(0.6%)	名古屋	37.7%	(37.1%)
網走	1.7%	(1.7%)	津	62.5%	(61.3%)
胆振	0.1%	(0.1%)	大津	7.2%	(7.1%)
日高	32.9%	(32.6%)	京都	6.5%	(6.4%)
十勝	8.4%	(8.3%)	大阪	23.0%	(22.5%)
釧路	17.5%	(17.3%)	神戸	8.2%	(8.0%)
根室	45.7%	(44.9%)	奈良	16.0%	(15.7%)
青森	1.4%	(1.3%)	和歌山	35.1%	(34.1%)
盛岡	0.2%	(0.2%)	鳥取	0.8%	(0.8%)
仙台	2.8%	(2.8%)	松江	0.8%	(0.8%)
秋田	1.5%	(1.6%)	岡山	9.1%	(8.7%)
山形	0.8%	(2.4%)	広島	10.2%	(9.7%)
福島	0.1%	(0.1%)	山口	0.7%	(0.6%)
水戸	8.3%	(8.3%)	徳島	46.5%	(44.9%)
宇都宮	0.3%	(0.3%)	高松	21.4%	(20.6%)
前橋	0.9%	(0.9%)	松山	22.7%	(21.8%)
さいたま	12.1%	(12.0%)	高知	54.3%	(52.3%)
千葉	27.2%	(27.1%)	福岡	2.3%	(0.6%)
東京	11.4%	(11.4%)	佐賀	0.6%	(0.5%)
横浜	32.9%	(32.7%)	長崎	0.7%	(0.7%)
			熊本	2.0%	(2.0%)
			大分	15.7%	(15.0%)
			宮崎	13.3%	(13.0%)
			鹿児島	3.7%	(3.7%)
			那覇	15.3%	(15.4%)